

創刊110周年記念

# 誇れるふるさと

## 24地区リレー

〈vol.8〉

〈小野② 課題とキーマン〉

典型的な農山村地域と言える小野は、少子高齢化が顕著で、高齢化率は58・35%と市内で最も高い。小野地区振興対策委員会の末田昭男会長は「地域を支える次世代の人材確保と、交通面を含む高齢者の生活支援が喫緊の課題」と指摘する。



インフォメーションおのののトップページ

# 移住者の視点で魅力発信

同委員会は2016年に策定した地域計画「小野プロジェクト」を基に、まち、ひと、しごとこの3部会に分かれて活動しながら活性化に取り組んできた。今年4月には「みんなが幸せな住み良い小野づくり」を掲げて計画を改訂。「子育て世代の移住推進に向けた特色ある情報発信」などの項目を新たに追加した。

次世代の人材確保として取り組む移住定住の促進へ今年3月、新たな組織「おののつこ未来応援隊」が発足した。小野小は数年後には児童数が1桁になる可能性があり、学校

## 地域課題解決へ`応援隊、も発足

存続の危機はもちろん、地域コミュニティーの低下も危惧されている。代表の才木祥子さんは夫と共に移住し、子育てしながら小野の魅力発信している。

高齢者の生活支援という課題解決に向けては、地域住民有志が18年に有償ボランティア団体「ハッピーライフおの」を結

成している。登録者が依頼者宅を訪ね、話し相手から買い物、掃除、ごみ出しなどの家事代行、草刈りなどのサービスを提供。住民相互で助け合うことで、住みやすい地域づくりの実現を目指している。

こうした小野の情報を内外に発信しようと、振興対策委員会は21年に総合ポータルサイト「インフォメーションおの」を開設した。地域活動の動画、空き家情報などを随時更新。移住者の声、小野小の活動なども掲載し、小野の住み良さをPRしている。